

小学生 特選

すなおな心で

所沢小学校四年 井上 翔真

「めーん！」

校庭で遊んで帰ろうとした時、体育館から大きな声が聞こえました。体育館の小さいまどからのぞくと、竹刀を持ってみんなで打ち合いをしていました。ぼくは、どうして仲が良い友達同士で打ち合っているんだろうと思いました。でもおもしろそうで、その日からぼくは剣道を始めました。

剣道を始めると辛いことがたくさんありました。毎週けい古があつて、いつも重い面をつけて、夏はとても暑いし、冬ははだしなのでとてもとても寒くて、足のうらがしもやけて血が出ることもあります。けれど一生けんめいに練習しているうちに剣道が楽しくなってきました。

けい古をしていると先生に怒られたりアドバイスをもらったりします。先生はとても優しく、わかりやすく剣道の基本やコツを教えてくださいました。剣道ではいくら技が上手でも、「めーん！」

「どーう!!」「こて!!」という技の名前を大きな声

でさげびながらでない一本になりません。おけい古では子供同士で練習をして、お互いにアドバイスを言い合ったりします。教えてくれる先生だけだけでなく、練習の相手をしてくれる中学生の先ばいや友達にも礼ぎをもって接して、「感謝と尊敬」の気持ちを忘れずにけい古に取り組みと教わります。

3年生のとき、けい古に行く気持ちが悪くなって練習ができなくなってしまうことがありました。剣道は好きなのに、道着を着ると気分が悪くなってけい古を見学することが続きました。ぼくは、このまま剣道ができなくなってしまうんじゃないかと不安でした。でも先生は、

「翔真の剣道はまだ始まったばかりだよ、これからもずっと剣道を好きでいてほしいから、あせらなくて大丈夫。」と声をかけてくれました。

ぼくにはライバルがいます。一年に何回かしか会えないけれど、試合では勝つことも負けることもあります。試合の前はともきんちょうします。負けてしまうとくやしい気持ちでいっぱいです。涙が出てきて、次は勝てるようにもつとけい古でがんばろうという気持ちになります。でもライバルとは仲が良く、よく剣道の話をします。その子も剣道のこと大好きなんだと思います。試合の

帰りには、

「またぜったい試合しようね。」

といて別れます。その言葉を言われると、ぼくは「次までもつと強くなってやるぞ。」という気持ちになります。

「直心」という言葉は、先生が教えてくれた言葉です。仏教の言葉で、意味は「いつでもすなおでまっすぐな心でけい古にはげめば、かならず成長できる」という意味だそうです。剣道は、辛いことも楽しいこともたくさんあるけれど、いつも見守ってくれている家族や教えてくれる先生と仲間になおな心でかんしゃして、これからもずっと剣道を続けていきたいと思っています。



「ぼくの弟だ。」

これがぼくと弟のさい初の出会いでした。一人っ子だったぼくに弟ができました。

ぼくには、生まれて10か月の弟がいます。弟が生まれたのは、去年の夏休みが終わったころでした。生まれた時、ぼくは、学校に行っていたので、立ちあえませんでした。弟が生まれるしゅん間を見なかったのでざんねんでした。学校から帰えつてすぐに病院に行きました。初めてだっことした弟は、かわいくて、小さくて、ぼくの弟なんだと思いました。

ねてるだけだった弟も今では、大きくなり弟の名前をよぶと、にこにこしながらずりばいでできてくれます。

弟は早起きなので、いつもぼくのかみの毛を引っばつて起こしてくれます。体は小さいのにぼくより力が強いかもしれません。

ぼくは、いつも弟といっしょにお風呂に入るので、たまに、洋服をぬがせてあげます。Tシャツをぬがす時に、頭が大きいのでぬがせにくいです。使ったおむつを小さくたたむワザもしゅうとくしました。弟は、お風呂で水をバシヤバシヤして

ぼくにかけてようとしますが、自分の顔にかかって、短い手で目をこすつていてかわいいです。

弟はムチムチしていてさわると、きもちよく、うではちぎりパン、手は、クリームパン、顔は、大福のようでまん丸です。ぼくも、小さいころ顔が大福みたいと言われていたので、ぼくと、同じだなあと思いました。

弟の好きな食べ物は、トウモロコシ、おにぎり、やきいも、なつとうごはんです。輪切りのトウモロコシをじょうずに回しながら前歯でかじりまです。実を食べ終わってもトウモロコシのしんをずつとしゃぶっています。その口びるがかわいいです。おやつをいっしょに食べる時は、赤ちゃんせんべいをわたしてあげると、自分で持つて口に運びます。お皿にのつたタマゴボーロを指でつまんで食べるができます。

弟とは、よくブロックで遊びます。ぼくがブロックでタワーを作ると、すぐにこわしにきます。両手にブロックを持つてたたいて、音を出して遊んでいることもあります。

ぼくに弟ができて10か月、毎日がとっても楽しいです。まだ、いっしょにいて、10か月なのに、もつとずつといっしょにいた感じがします。弟が生まれてがまんすることやお手伝いがふえただけれど、ぼくにとって世界で一番のたから物です。



わたしは、戦後八十年の記念に、夏休みにおばあちゃんといっしょに「あの夏の絵」というおしばいを見に行きました。

おしばいを見て思ったことや感じたことは、今は平和だけど、八十年前生きていて死んでしまった人の思いを受け留めて戦争のことをみんなに語りついでいきたいと思いました。「あの夏の絵」は戦争のことを高校生の美術部が戦争を体験した人からアドバイスをもらいながら絵にしているお話です。このお話で印象に残ったところは、主人公の浅野さんやめぐみさんが戦争を体験した人のお話を一生けん命聞いているところです。このおしばいを見て思ったことが二つあります。それは、今ロシアやウクライナでは戦争が続いている、日本は平和でよかったということです。だから、いつか外国でも戦争がなくなつて平和になつてほしいです。理由は、戦争がなくなれば、戦いで亡くなる人が減るからです。二つ目は戦争のこわさと家族といっしょにくらせることの大切さです。おしばいを見て、改めて戦争は、こわくておそろしいことだなと思いました。もしも戦争で、家族が亡くなつてしまつたり、はなればなれ

になつたら、とてもつらいなと思いました。だからこそ、今は平和で幸せだなと思いました。家族といつてもいっしょにくらせたり、友達といっしょに楽しく遊べたりするのがどれだけ幸せかがよく分かりました。昔は、「配給せいど」ということがあつたそうで、お金はあるのに物が買えなかつた時代があつたそうです。そのことから、現代みたいな便利な時代に生まれてきてよかったと思えました。おしばいを見たあと、実際に高校生の美術部の人がかいた絵を見ました。その絵は、とてもはく力があつて戦争の時代に行つたかのようなリアルな感じもあつて、すごいなと思いました。わたしがもし美術部だったら、「戦争の絵なんかかけない」と断つていたり、こんなすごい絵はかけないと思ひました。絵を見て思ったことが、二つあります。一つ目は、もしもわたしが絵のような戦争のような時代に生まれていたらということ。戦争の時代に生まれていたら、食べ物に困つていたと思ひます。今は便利だからこそ、おいしい食べ物がたくさんあるという大切さを実かんするべきだと思ひました。一つ目は、「平和」について考えたいということです。わたしは、「平和」とは、「家族といっしょにご飯を食べたり、物ごとが今までどおり順調に進んで戦いが無いこと」だと思ひました。みなさんも、平和

について考えてみてください。わたしは、いつか家族やおばあちゃんといっしょに広島や長崎に行つて、げんぼくドームや平和公園などの戦争に関わる場所に行つたり、戦争のことがかいてある絵を見て、平和についてもっと考えてみたいと思ひました。



小学生 金賞

わたしのかわいい妹

中央小学校四年 大谷 咲

わたしには、3才のかわいい妹がいます。妹がおなかの中にいた時、

「早く生まれてこないかな。もうすぐおねえちゃんになれる」と、

と、わくわくしながらその日をまっけていました。そして、一生けんめいに名前を考えて、まだ生まれていない妹に手紙を書いたりしていたそうです。

母が妹をうむために入いんしていた時は、少しさみしくて泣いてしまいました。公園で母のびょういんにむかって大きく手をふりました。母は見えなかったけれど、わたしの心は少し安心しました。

妹がはじめてうちにやってきた時は、とても小さくて軽そうにみえたけれど、だっこしてみると少し重くてびっくりしました。妹の体は、とてもあたたかくて、生きているんだなと思いました。やさしいおねえちゃんになりたいと思い、妹の方

を見てしぜんとえがおになりました。

3才になった今の妹は、いつもたくさんわらって、「大好きだよ」と、

「大好きだよ」と、

言ってくれます。それが、わたしはとてもうれしいです。3才のたん生日の時、わたしがプレゼントしたぬいぐるみを今でも大切にしてくれて、ねるときはいつもベッドにもついでいきます。しかし、だっこしてねるわけではなく、転がっていかないようにベッドのすみっこにしているのがかわいくてしかたないです。

大人になったら、二人で遠いところへ旅行に行つて、バイキングでたくさんすきなものを食べて、温せんに入って、二人にとってさい高な思い出を作りたいです。でも一番のねがいは、これからもずっとわらって、ずっと仲よしな姉妹でいたいです。

わたしは、3才の妹がいて、とても幸せです。



平和な日常、幸せな家族

明峰小学校五年 大面 花怜

私のひいおじいちゃんは今百一さいです。つえもつかずめがねもかけず耳はだいぶ遠いですが、てくてく歩き自分のことは何でもできます。今、日本は戦争が終わって八十年がたちました。げんばくが落ちた日、ひいおじいちゃんは広島にいました。船舶に兵隊さん達を車で送る役目をしていました。荒神橋というげんしばくだんが落ちた所から約二キロメートルのちてんにいました。ひいおじいちゃんはトラックの下にかくれ助かりましたがひばくしてしまつたのでひばく者健康手帳を持っています。私はしょうじきなところ戦争についてはあまりよく知りませんがそれがいけないことだということは分かります。ひいおじいちゃんが生きていてくれたおかげで、おばあちゃんも生きて、お母さんがいて、私があります。学校が終わると毎日ひいおじいちゃんの家に帰ります。いっしょにテレビのニュースを見たり、体そうをしたり、昔の遊びを教えてもらいます。ひいおじいちゃんがケガをしていない時はいっしょに朝おさん歩に行っていました。夏休みはお昼に何を食べるかを相談したりいっしょにお昼ねをしていました。そんな、なにげない日常が私はとても

楽しいです。お正月には必ず親せき全員ひいおじ

いちゃんの家にあつまります。カードゲームをしたりボードゲームをしたり、みんなでわいわいもりもりごはんを食べたり大人たちはおさけをのみます。この日はひいおじいちゃんも少しのみます。ひいおじいちゃんもこの日はなんだかとてもうれしそうです。毎週末、私達はひいおじいちゃんの家で夜ごはんを食べています。お肉とか固い物は食べやすいように小さく切っています。ちなみに私もたまに小さく切っています。お母さんもまれに小さく切って、ひいおじいちゃんといっしょだねと笑い合っています。これからもこんな日がずっとつづいてほしいなと思います。今、ひいおじいちゃんにはやしやごまでいます。私も大きくなったらいつまでも元気でたくさんの家族に囲まれ、楽しくすごせたらいいなと思います。それには戦争はぜったいになかったらいいとねがいます。これから少しずつ戦争について考えたり調べたりして勉強していこうと思います。



平和の風がふきますように

明峰小学校五年 前田 綾美

「うわっ湿度が高い。」なは空港に着いた時の最初の感想です。私は、夏休みに家族で初めて沖縄県に旅行に行きました。とにかく私にとってこの夏休みの旅行は、一年間のなかで毎年一番の楽しみです。実は、一学期の社会のじゅ業で沖縄県の気候やみ力について調べたり、三年生の運動会でエイサーをおどり、沖縄県にはきょうみがあつたので、行く前からとても楽しみでしかたありませんでした。湿度の高さを実感して、勉強したとおりでだったのでうれしかったです。

さて、実際に行った沖縄県は私の住む埼玉県とは全然ちがっていました。まずは、方言です。「めんそーれ」「ハイサイ」など聞きなれない言葉でした。また、くだ物は、パッションフルーツ、マンゴー、ドラゴンフルーツ。花は、ハイビスカスがとてもきれいにさいていました。中でもパッションフルーツはあまずっぱく種まで食べられてとてもおいしかったです。お土産にパッションフルーツを持ち帰りました。そして何ととっても海。とてもきれいでエメラルドグリーンにかがやいています。私はエメラルドグリーンが大好きなのでとてもうれしくてこうふんしてしまいました。海

に入ると、海水のとうめい度が高く足がすけて見えます。すごいなあと思いました。美ら海水族館では、人気者のジンベイザメがいます。とても大きくてかわいかったです。他にも、見たことのない色とりどりの魚たちがたくさんいました。どうしてこんなにもちがうのかとぎ間に思ったので、父と母に聞いたたら、「そもそも沖縄県は琉球王国という一つの王国だった。」と言われなつとくしました。沖縄県の人たちは、いつも笑顔で買い物をするところそりおまけもしてくれる優しい人ばかりでした。そんな沖縄県のことを、大好きになりました。

一方で私がとてもおそろしかったことは、アメリカ軍のき地です。何もない日なのに戦どう機がたくさん飛び立つんです。音はものすごく大きくで思わず耳をふさいでしまいました。においはこげくさく、父からゴムが焼けたにおいだと、教えてもらいました。沖縄県の小学生の人たちは、毎日大きな音がして、じゅ業に集中できないのではないかと心ばいになりました。

八月十五日は終戦の日でした。戦争が終つて八十年ということもあり、テレビのニュースで何度も特集されていました。そこでおどろいたことは、沖縄県ではゆい一のはげしい地上戦が行われたこと。また島民の四人に一人が亡くなったことを

知りました。旅行に行き大好きになった沖縄県だけがなぜはげしい地上戦を戦ったのか。なぜ多くの島民の人たちの命がうばわれたのか。そのことがとてもぎ間に思い、知りたくまりました。

私は来年六年生となり、社会のじゅ業で八十年前の戦争について学びます。これから学校のじゅ業だけではなく、パソコンや本などで自分なりに調べてぎ間の答えにたどりつけるようにがんばりたいと思います。そして、その答えをもつてもう一度沖縄県に行きたいです。

こうして毎年家族で旅行に行けること、家族でいっしょにすごせることは、戦争がない平和があるからだと思います。戦争がない世界にするためにはどうすればよいか、考えていきたいと思えます。そして、ウクライナとロシアの戦争やイスラエルとパレスチナの戦いが一日でも早く終わることを願います。

怪我の功名

東所沢小学校六年 亀山 望

ぼくの将来の夢は、歯医者になることです。なぜかという、ぼくは、五年生のときに友達と公園で遊んでいた、友達のぶらんこが歯に当たって歯が折れました。その後すぐに、父と歯医者に

行きました。そのとき、歯医者さんは昼休み中だったけど、ぼくの治りようをしてくれました。折れた歯は付けられなかったけど、どうしたら元の歯のようにできるか、考えてくれたりして親切にしてくれたので、ぼくも親切な歯医者になりたいと思っただけです。

ぼくが今、歯医者になるためにがんばっていること、やっていることは、三つあります。一つ目は、歯医者に行ったときに歯医者さんが使っている道具と、その道具の使い方を見て、家に帰ってからその道具の名前を調べています。例えば、ダイヤモンドバーは、歯を削るときに使い、用途に応じて色々な形で分けられています。バキュームは、口の中の唾液や水、治りようで出た血液を吸引するときに使います。バキュームは治りようでほぼ必ず使うので、歯医者にはなくてはならない道具です。

がんばっていること二つ目は、スイミングです。なぜかという、歯医者、長時間同じ姿勢での治りようで、体力が必要だからです。ぼくは、スイミングが苦手だったのでスイミングが正直、いやでした。でも、歯医者には体力が必要だということを知って、体力をつけるためにスイミングを続けようと思えました。続けていて、上達すると楽しく感じられるようになったので、続けていて、良か

ったと思っています。

三つ目にやっていることは、なるべく色々な人と話すことです。ぼくは、初めて会う人と話すことが苦手です。でも歯医者には、患者さんとコミュニケーションをとることが大切で、コミュニケーションをとることで、患者さんの困っていることが分かったり、緊張をやわらげることができらです。なので、ぼくは、習い事などで学年や学校がちがう人と話すことを心がけています。

歯医者になるには、まず、大学の歯学部か歯科大学で六年間学び、歯科医師の国家試験で合格して、その後一年間以上の臨床研修を受けて修了すると、歯医者として本格的に働くことができます。うになります。歯科医師の国家試験は他の国家試験よりも合格率が低いけど、ぼくに親切にしてくれた歯医者さんのようになるために、たくさん勉強して歯医者になりたいです。

ぼくは、来年中学生になるので、まずは授業が分からなくならないように予習をし、授業をちゃんと受け、復習をすることを習慣にして、少しでも成績を良くして、行きたい高校に行けるようにしたいです。

ぼくは、歯が折れるまで、これといって将来やりたい職業がなかったけど、歯が折れたことがきっかけで、将来の夢を見つけることができました。

歯が折れたことは残念だったけど、これからは、残念なことやいやなことがあっても、そのことを自分のプラスになるように考えて、前向きに生活していきたいです。

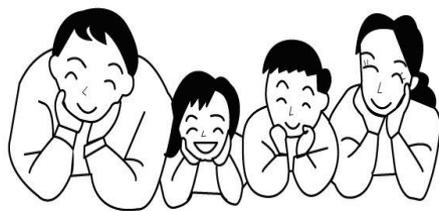
世界で一番大切な宝物

東所沢小学校六年 林 拓摩

僕の家族は、父、母、弟、僕の四大家族です。そして、忘れてはいけないのが、猫の二匹です。この二匹も僕にとってとても大切な家族です。父は勉強を教えてくれたり、抱っこをしてくれたりする、優しくて頼もしい人です。母は明るくて、いつも笑顔でそばにいてくれる優しい人です。弟は三つ年下で、とても頼りになるしっかり者です。一緒に遊んだり、時にはけんかをしたりもしますが、仲良しの兄弟です。猫はともかわいくて、夜は一緒に寝てくれたり、僕がさみしいときには、いつもそばにいてくれる、大切ないやしの存在です。そんな僕には、生まれつき心臓に病気があります。赤ちゃんのころから手術をしたり、長い間入院したりしてきました。今でも定期的に検査や診察を受けなければなりません。今年の夏休みも、カテーテル検査のために入院しました。検査の前はとても怖かったです。でも父と母がいてくれた

ので、頑張ることができました。入院中は母と一緒にいてくれたので、夜もさみしくありませんでした。そして、検査室へ向かう時、急に怖くなっしまいました、「やっぱり無理だ」と泣き出してしまいました。そのとき父や母、先生や看護師さんが「大丈夫だよ」「頑張ろうね」とはげましてくれたので、なんとか検査室へ入ることができました。弟とは毎日テレビ電話をしました。弟は退院したら一緒に遊ぼうと言ってくれて、僕のことを心配してくれました。その言葉がとても嬉しくて、早く元気になりたいと思いました。病気のせいでつらいことや不安なこともたくさんあります。でも、そのたびに家族がそばにいてくれるから、僕は頑張ることが出来ます。父も母も弟も猫も、みんなが僕を支えてくれているのです。将来、僕は看護師になりたいと思っています。入院や検査でつらい思いをしたとき、不安で泣いてしまったときに、「大丈夫だよ。」と笑顔ではげましてくれた看護師さんのおかげで、安心して検査を受けることが出来ました。だから僕も人を助けたり、困っている人の力になれるような看護師になりたいのです。自分が病気と向き合ってきた経験を生かして、同じようにつらい治療をしている人の気持ちに寄りそい、はげましたり勇気を与えたりできるようにになりたいと思います。きっと、僕だからこそ

できる看護師の姿があると信じています。家族は助け合う存在なのだと、僕は強く思いました。僕にとって家族は、世界で一番大切な宝物です。今までたくさん支えてもらったように、将来は僕も家族を支えられる存在になりたいです。そして、父と母のようにお互いを思いやり、助け合える温かい家族を築き、どんなときも大切にしていきたいと思っています。



小学生 銀賞

将来の夢

安松小学校四年 井上 涼太

ぼくの将来の夢は、世界中の子供たちが楽しめる遊園地を建てることです。

なぜその夢をもつようになったかと言うと、ぼくがお母さんと買い物に出かけた時にレジの横に置いてある、ぼ金箱にお母さんがぼ金をしていたことがきっかけでした。

「これはなんのためにしているの。」とぼくがたずねたら、「今世界中で、戦争が起きていて、ご飯が食べれない子や、病気にかかっても治療ができない子がいるんだよ。」と教えてくれました。

その話をきいてぼくもおこづかいからぼ金をしました。

家に帰った後に、ぼ金の事を調べていたらユニセフの事を知りました。ユニセフとはひんこんの子供達に、教育や食料、治療などを支援する団体です。

ユニセフのぼ金は5人の命を救うことができます。今も苦しんでいる子供達を助けたいので、

ぼ金箱を見かけたらなるべくぼ金をしています。

お医者さんのように人を助ける方法もあるけれど、ぼくは子供たちを笑顔にしたいのでみんなが楽しめる場所はなんだろうと考えた時に遊園地を作りたいと思いました。

ぼくは小さい頃からテーマパークが大好きでいろいろな場所につれていってもらえていやなことがあっても、テーマパークに行くとしたのしい気持ちになることができて沢山の子供達が同じように幸せな気持ちになってほしいと思ったからです。

遊園地を建てる理由がもう一つあって、ぼくは6さいからダンスを習っているのですが、発表会やイベントでおどった時に、お客さんや家族が楽しんでよるこんでくれた時にうれしい気持ちになれたので大人になっても人を笑顔にしたいと思ったからです。

ぼくはまだ小学生なのでできることは少ないけれど、毎日の学校の勉強を頑張って世界のことを勉強して将来は、ボランティア活動でひんこんの子供たちに会いに行つて手助けをしたいです。そしていつか世界中の子供達が幸せな気持ちになれる遊園地を建てるたいです。

将来の夢

東所沢小学校四年 錦織 友紀

私の将来の夢は、料理人になることです。

理由は、料理を作ることが好きだからです。どんな所が好きかというと、手順を考えながら作り出来上がった時の達成感が好きです。そして、何かに集中できることが好きです。

夢のきっかけは五歳の時でした。母の料理作りを見て、自分もやってみたいと思い始めました。始めた頃はもちろん出来ない事の方が多かったです。ですが、出来ない事があっても諦めなかつたので料理人になるといった夢があります。母は、とても丁寧に料理を教えてくださいました。最初は、何も役に立てませんでした。今は違います。手伝いをするたび

「ありがとう。助かったよ。」
と言ってもらえます。

でも、将来の夢が料理となつたのはここ最近でした。一年生ぐらいの時までは、優しくしてもらつた幼稚園の先生になりたいと思つていました。でも、いつしか料理人になりたい気持ちの方が大きくなっていきました。

ある日、私は和風ハンバーグを作りました。その日のメニューは、どれも作るのが大変でした。

作った料理は、ハンバーグとサラダと汁物です。私は切る工程が好きなので、切る担当をしていたのですが、サラダは人参とアスパラをリボン状にする他に汁物は、じゃがいもの数が多く皮を剥いたりするのが大変でした。作るのにかかった時間は母と作り、一時間半ほどです。大変ではあったけれど、その後に食べた料理は本当に美味しかったです。

食事は生きるために必要です。いつも何気なく取っている食事を、楽しむとより良い時間になると私は思います。

最近は加工食品などが増えてきました。手軽に食べられることから、食べている人も多いと思います。ですが、ほとんどの加工食品には塩分、糖分、脂肪分が多く入っています。その他に、色を着ける着色料、食品の保存性を高める保存料、香りを付ける香料などには、体調不良やがんを引き起こす可能性があります。ですが、家で作った料理を食べる事は、健康にも良いです。健康に良い食事を取ることで、健康維持にもつながります。なので、私は健康な料理という事も考えながら作りたいです。

そして、自分が作った料理を美味しいよと言ってもらうたび自信が付いていきました。それと同時にもっと美味しい料理をつくりたい。もっと

色々な料理を作ってみたいと思うようになっていきました。私は、食べることも好きです。好きなものや、美味しいと思う料理を食べると幸せになります。

だからこそ私が料理人になったら、健康に良く食べた人が美味しく思い幸せを感じられる、そんな料理を作れる料理人になりたいです。そのために私は、これからも料理を作る事を続けて、料理人という大きな夢を自分の力で叶えます。



わたしのしょう来の夢

山口小学校四年 横瀬 佳奈

わたしのしょう来の夢は、言語聴覚士（ST）さんです。

わたしが、この仕事を知ったのは、小学三年生の時です。知ったきっかけは、自分の、しょう害でした。

そのしょう害は、「こう音しょう害」という発音のしょう害でした。わたしは「か行・が行」が「た行・だ行」に聞こえてしまいます。

わたしは、小さいころから、思った事が伝わりませんでした。例えば、「かにパン」が「たにパン」に聞こえてしまいます。

お友達に、

「佳奈ちゃん、何を言ってるのか分からない。」と言われる事がありました。何でそんな事を言われるのか、分らなかつたです。

こう音しょう害は、正しい発音をする動きがむずかしく、相手に正しい言葉が伝えられません。また、本人がまちがいに気がつかない事があります。

ある日、お母さんに、「いっしょに病院に行って、リハビリに行こう。」と言われた時はびっくりしました。友達にばれた

らどうしようと不安な気持ちでいっぱいでした。

病院にけんさをしに行きました。さいしょ、先生に会った時、「どんな先生なんだろう」と不安な気持ちでいっぱいでした。「こわかったらどうしよう」とわたしの心の中はその気持ちでいっぱいでした。

でも、話してみたら、思った以上にやさしくて、きびしくなくて、びつくりしました。

先生の名前は、あさ岡先生と言いました。やさしい先生で、リハビリに毎回行くとたびに、行くのが楽しみになりました。

先生のおかげで、少しずつ自分の名前を言えるようになりました。少しずつほかの言葉が言えるようになりました。通ってよかったです。

わたしは、自分がそうだったように、同じようになしう害でくらししてる子供を、少しでもすくいたい、治おしてあげたいと思うようになりました。自分でもつらい思いをたくさんしてきたので、言語聴覚士になって世界から少しでもたいへんな思いをしている子供たちが少なくなってくれたいと思っています。



大好きな家族

東所沢小学校五年 小林 茉央

自分にとって家族という時間は、とても楽しいです。わたしの家族は、四人います。お父さんは、やさしいです。いつもあまり怒らずに、わたしや、弟の世話をしてくれるからです。お母さんは、おもしろいです。私の話につっこみを入れてくれます。弟もやさしいです。わたしが弟にめいわくをかけてしまっても、ゆるしてくれます。あとは、けんかをしてしまった時も、たいたりせず、あやまってくれます。そんな家族といくと、楽しいです。

わたしの家族ですが、楽しいと思うときでなく、いそがしいと思うときもあります。わたしは学校に行ったり、習い事をして、とても大変です。ピアノは、朝に20分ひかなければいけないのですが、さぼりたいという気持ちがあつて、ピアノをやらぬ日があります。(やらなきや)という気持ちちいつも戦っています。朝、お父さんにピアノをやるようにやさしく声をかけられることもあります。お父さんは、職場で責任のある仕事をまかされておき、帰りが遅くなることもあり、大変そうだなと思います。お母さんは、いつも家に帰って来るとぐったり疲れています。わたしは、そ

んな二人を見て、(大丈夫かな)と思っています。弟は、保育園に通っています。保育園から帰ってくると、わたしに

「いっしょにテレビ見よう」

と言ってくれます。そうすると、うれしい気持ちになります。弟がいてよかつたなと思います。

家族がいそがしい時に助けてくれたのは、おばあちゃんです。お父さんのお母さんです。おばあちゃんは、いつも朝、お父さんもお母さんも、早く家を出なきやいけない時に来てくれたり、わたしや弟の具合が悪くなつてしまつた時などに来てくれて、心がほつとしました。おばあちゃんは、わたしが何か作品を作つたときに、

「わあ、まおちゃん本当に作るの上手だね。」

と明るい声でほめてくれました。いっしょにごっこ遊びで、遊んでくれていたときは、二時間ぐらいわたしと遊んでくれて、楽しかつたです。二時間ずっと休みなしで遊んでくれて今になって疲れたんじゃないかと思ひます。いつもほめて遊んでくれていたおばあちゃんが、2月に病気になつてしまいました。

「おばあちゃんの病気、もう治らないんだって。」と、お父さんに聞かされました。聞いた時、わたしは、(病気、治つてほしいな)と思ひました。

三月、わたしは学校にいました。そしたら先生

に、

「お母さんから家に帰って来てといわれたのでランドセル用意してください。」

といわれて、わたしは、(何でだろう。弟が熱でもだしたのかな。)と頭の中がハテナだらけの中、帰る準備をしました。ろうかにいたお母さんの所に行ったら、お母さんが速歩きして、どんどん前に行ってしまうので、わたしも速歩きしました。お母さんと話しながらかいだんを下りました。

「何でおばあちゃんが病気になったんだろうね。」お母さんが言いました。

「うん…。」

わたしが言いました。そして話しているうちに、しょうこう口まで来ていました。そして、車に乗り、病院に向かいました。病院に着くと、おじいちゃんや親せきの人がいました。親せきの人は、おばあちゃんの兄弟ということがわかりました。ロビーでおり紙をしたり、おかしを食べて、数時間すごしていたときに、お母さんに、

「まお、急いで病室いくよ。」

と言われました。

「何で？」

と聞くと、

「おばあちゃんの命があぶないんだよ。」

と言われ、急いでエレベーターに乗り、病室に向

かいました。病室に行くと、おばあちゃんは、ねていて、周りには、親せきの人やおじいちゃんがいました。わたしもおばあちゃんのそばに行き、見まもりました。その後、たくさんの人に囲まれ、ねむるようになくなりました。とても悲しかったです。

大好きだったおばあちゃんには、もう会うことができません。もうおばあちゃんと思いい出を作ることができない分、家族でたくさんお出かけしたり、お話したりして、思いい出を作っていくたいです。学校から帰って来たら、いそがしくても、学校であったことを話したり、弟と遊んだりして、毎日をすごしていきたいと思います。



明日へつなげる環境問題

北中小学校五年 清水 佳凜

わたしはSDGsの17の目標の中で「海の豊かさを守ろう」と「陸の豊かさを守ろう」の二つにきょう味がある。水と森林の大切さについて考えてみたいと思う。

みんなにとって幸せな未来にするために、まずはSDGsの問題意識を持ってもらうことが大切だ。そのためには、SDGsの本を課題図書にしたり、図書館のおすすめ本コーナーに置いたり、書店の目立つところならべて気にとめてもらえるようにすることがよいと思う。

自分を変えたい未来を想像してそのためにはどうすればいいのかを考えて、それを実際に試してみるのがよいと思う。

「水を大切に使う」、「海をこれ以上汚さない」この二つなら私たちも取り組みやすいSDGsではないだろうか。私が家族で取り組みやすいたらすぐにできそうなことに、シャワーの水は出っぱなしにしない。シャンプーや洗剤を使いすぎない。何度もトイレの水を流さない、を考えた。実際に私は出っぱなしをもったいないと注意されて水を止めることがある。母は、水道から飲める水が出てくる国は恵まれているのだ、きれいな水が

豊かにある国は世界に少ないのだと教えてくれた。日本では、飲み水はコンビニでも気軽に買える。身の回りに水がたくさんある生活に慣れてしまっている。だからこそ、ひとりひとりが水の使用量を少し減らして、水がたつぷりない暮らしを体感するとよいと思う。それにより、水があることの大切さがわかるのだ。

わたしは海洋汚染という言葉を知った。海に流れたプラスチックごみが小さな魚やへんとなつて海の生き物の体の中にたまっていく。命がおびやかされている。また、不要となった漁具が海へ流出していて、海ガメやアザラシや魚が網からみついて逃げられず死んだりしているそうだ。どれもわたしたち人間の使っていたものである。注意をしてごみの分別をして捨てていけば、流されるゴミや漁具が減るのではないだろうか。問題意識をもって、小さなことにひとりひとりが取り組むことが、海をこれ以上汚さないですむ方法と考えた。

SDGsの目標「陸の豊かさを守ろう」のためにできることは何か。次に、わたしは森林の大切さについて取り組めることに「森の木をきりすぎない」「森を手入れする」を考えた。森のよい土が川に流れて、最後は海に流れていくと、最終的に海の状態が良くなり、海草が育ち貝や魚が良く育

つと本で読んだことがある。

「自分が使わなかった水が、水が豊かでない国の人のところで使われるといいな。」とふと思つたことがある。この心をみんなが思い続けられれば、世界中の人がきれいな水を使える日がくるはずだ。わたしはそう信じている。

「必ず未来を変えていける。」とひとりひとりが思えば、これらの行いを続けていけると思う。地球と、これから生きるわたしたちのために、水と森に優しい暮らしをしていきたい。

みんなの「明日」を守るため

北秋津小学校六年 柴崎 瑛人

今年の六月九日、ぼくのおばあちゃんが事故にあいました。横断歩道を歩いていたのに車にひかれてしまいました。

そこは、ぼくがおばあちゃんの家遊びに行つて、図書館や公園に行く時に、いつも渡っている横断歩道です。一人で出かけるぼくに、

「信号がなくて危ないから、ちゃんと見てから渡るんだよ！飛び出しちゃだめだからね！」と、ぼくが六年生になった今でも行くたびに毎回言っていたおばあちゃんが、なぜ事故にあつてしまったのか、今でも信じられない気持ちです。

ぼくは車の運転はできないけど、お母さんの運転する車の助手席に座るのが好きで、車で出かける時にはいつも助手席に乗ります。

そういう時に、急に飛び出してくる自転車や、横断歩道じゃないところをのんびり歩いて渡る高齢者を見て、危ないなあと思うことが何度もあります。

でも、一番危ないと思うのは、渋滞している車の中にある横断歩道を渡るうとしていてる人が、反対車線を走る車から見えにくい時です。横断歩道があつても、渡る人が見えないと、スピードを出したまま走つて行く車がとても多いなあと思います。

ニュースを見ていると、毎日のように車の事故のニュースがあつて、ぼくと同じような思いをしている人がたくさんいるんだと思うと、本当につらいです。

車を運転している人みんなが、いるかも知れない歩行者に気を付けて運転すれば、横断歩道を渡る人みんなが、止まらないかも知れない車に気を付けて渡れば、誰も痛い思いや悲しい思いをしなくてすむ日がくるんじゃないかと思えます。

おばあちゃんが事故にあう前の日、いつものように一緒にごはんを食べて、いつも通り「また来週ね」

と声をかけてくれたのが、おばあちゃんと交わした最後の言葉になりました。

事故から二ヶ月、意識は戻らないままでしたが、ぼくたちが呼ぶ声にこたえてくれるように目を開けたり、がんばってくれていたおばあちゃんは、八月十二日、死んでしまいました。

おばあちゃんにまた来週、当たり前のように会えると思っていたのに、また一緒にトランプをして大笑いできると思っていたのに、もう一緒に出かけることも、叱ってくれることもなくなってしまうました。

ぼくたちのような思いをする人が少しでも減るように、みんなの大切な人との明日が当たり前にくるように、事故にあうことなく安心して安全に過ごせる日がくることを心から願っています。



ぼくの将来

東所沢小学校六年 金子 覚意

ぼくの将来の夢は、建築士です。なりたい理由は、小さい頃からブロックが好きで、立体的なものを作るおもしろさを知り、ものを作る仕事に就きたいと思ったからです。

ぼくは以前、テレビで建築士が出演しているのを見て、自分の好きなデザインを手がけることができる場所にすぐみ力を感じました。あと、人の役に立つ建物を作ることができ、社会に貢献できるというところもいいなと思いました。

建築士とは住宅、マンション、ビル等、色々な建物を設計する仕事です。建築士には種類が三つあり、それは一級建築士、二級建築士、木造建築士です。一級建築士は色々な建物を設計でき、二級建築士は一定の広さで設計をし、木造建築士は木造のみの建物の設計が可能です。

小学校二年生のときに、「窓いっぱい不思議な家」というタイトルの作品を作って入賞してうれしくて、それで建築士になりたいという気持ちでさらに強くなりました。画用紙で家を作って、どこから見ても違う形の建物に見えるようにするとところを工夫して、へんな形にして、おもしろく見えるようにしました。

建築士になるためには、依頼人の要望を深く知るためにコミュニケーション能力が必要なことと、複雑な構造計算ができるようになる必要があります。ぼくは、算数がすごく苦手だったので、もう勉強をして算数ができるようにしました。建築士の試験は学科試験と設計製図試験の二種類があります。一級建築士の試験の合格率はとても低く、十パーセント、二級建築士の合格率は二十五パーセントとこちらも低いです。ぼくは、一級建築士、二級建築士、木造建築士の中では一級建築士になりたいです。これからもそのために勉強をがんばっていききたいです。

ぼくは将来、バリアフリーやユニバーサルデザイン等、障害者も安心して生活ができるような設計をしたいと思います。たくさん建物を手がけているいろんな人を笑顔に、そして生活を便利にしたいです。ガウディやル・コルビュジェのような、人々か愛され、あこがれられるような建築士になって、世界中で活やくしたいです。

